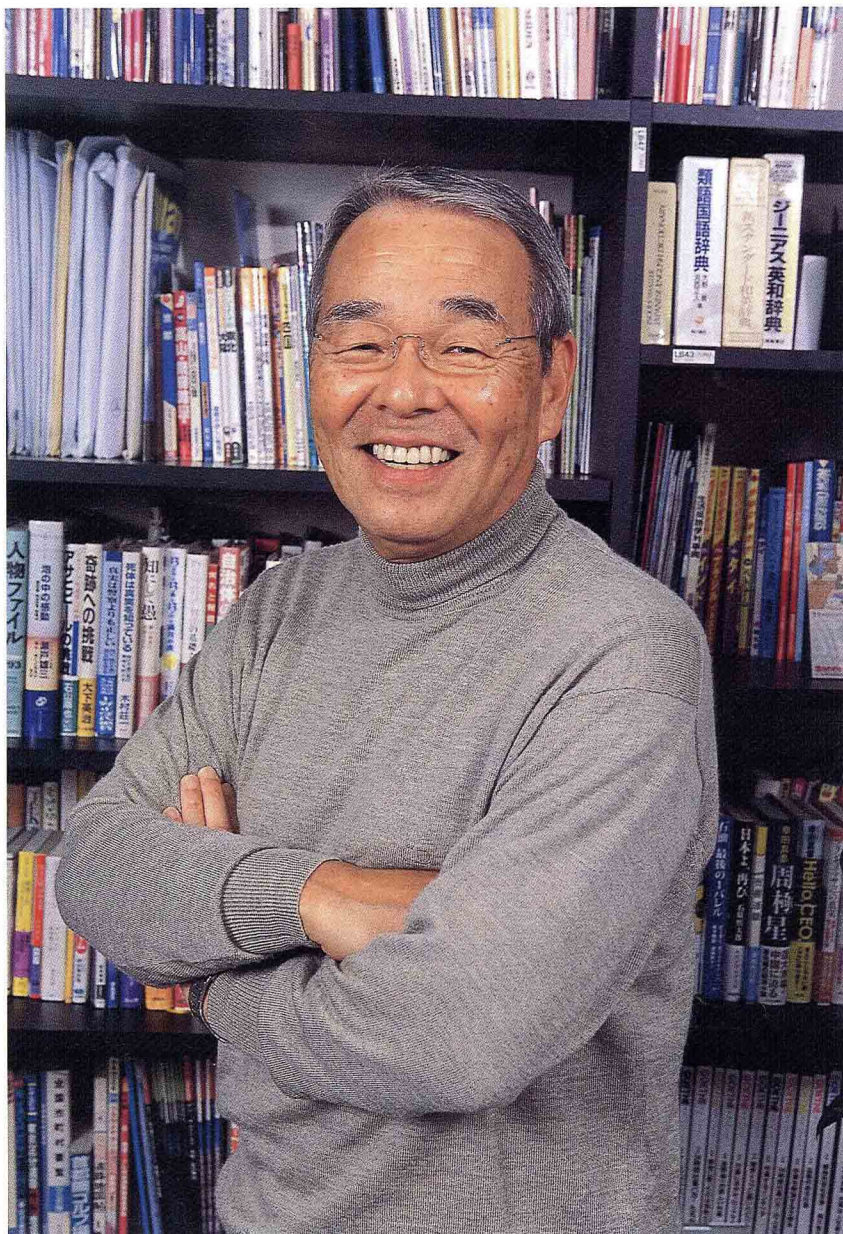


## 地球の危機とメディアの使命



キャスター  
**福留 功男**

世界最大の熱帯雨林を有するブラジル・アマゾン地域に虫食いのように点在する大豆畑。年々その面積は拡大し続け、熱帯雨林破壊の危機はすぐそこまで来ていると言っても過言ではない。

キャスターの福留功男さんは、早い時期から環境問題に関心を寄せ、自然保護活動にも熱心に取り組む一人だ。これまで訪れた開発途上国・地域は数多く、2007年9月にはアマゾンを取材。熱帯雨林が牧場と大豆畑に侵食されていく現実を目の当たりにすると同時に、それと日本人の食生活が密接に関係していることを知り衝撃を受けた。

「メディアの人間として、現地で見聞きし、感じたことは視聴者に伝え、訴えるのが使命」と話す福留さんが今警鐘を鳴らすのは、あまりに低い私たち日本人一人一人の自然破壊に対する危機意識だ。(続きは裏ページへ)

## 「日本人はもっと 自然破壊への危機意識を」

キャスター

### 福留 功男

Fukutome Norio

1942年高知県出身。明治大学卒業後、66年日本テレビ入社。「アメリカ横断ウルトラクイズ」「ズームイン!!朝!」の司会などを担当。91年に退社、現在は「ブロードキャスター（TBS）」「いつみても波乱万丈（日本テレビ）」などに出演中。2004年にテレビ番組「ボルネオ・緑の絆～福留功男のジャングル紀行」でJICAのプロジェクト取材。また07年8月にはブラジル・アマゾンの熱帯雨林とJICAの取り組みなどを取材した。

1月25日（金）15時～17時半、JICA国際協力総合研修所（東京・市ヶ谷）にて、福留さんも講演する公開シンポジウム「アマゾン：森林消失と気候変動」を開催。ゲストスピーカーに、アマゾン衛星監視システムの構築者、ヨシオ・シマブクロ博士（ブラジル国立宇宙研究所上席研究員）。



photos by Otsuka Masataka

上空からアマゾンの熱帯雨林を見たとき、ついにここまで来たかと、正直驚きました。かつて牧場だった場所が大豆畑になり、熱帯雨林だったところが牧場になっていく。少なくとも過去4度訪れたときにはこうした現象をそれほど感じませんでした。また、熱帯雨林の中にそびえる55メートルの観測塔から熱帯雨林を眺めましたが、そこではオゾンいっばいのきれいな空気の流れを感じました。「なぜ豊かな森林資源を伐採して大豆畑に？」という疑問をより強く抱きましたが、「地球温暖化防止のためにも大豆畑をやめ、熱帯雨林を守ってほしい」と日本が言うこと自体、おこがましいと思うんです。大量の二酸化炭素を排出し経済成長してきた国の一つである日本が、ブラジルばかりに対策を求めてよいのでしょうか。

大豆畑や牧場面積が拡大する理由は言うまでもありません。世界の食料需要が伸びていることや、石油価格の高騰、温暖化対策の必要性を受けて、バイオディーゼル燃料としての大豆の需要が高まっているのです。ブラジルは20年以上前から急速にサトウキビや大豆を増産して輸出し、その外貨収入を教育や保健医療など社会サービスの向上に役立ててきました。それにより、いまやBRICsといわれるほど成長し、これを知ればなおのこと、大豆畑を拡大するなどは言えないですよ。

熱帯雨林の真ん中にマナウスという都市があり、ここに30社以上の日本企業が進出しています。市街から少し上流に行ったところに、アマゾンで取れた大豆から食用油を作る工場がありました。驚いたのは、生産者は日本企業との

合併企業で、最大の消費者が日本と中国だということ。ましてや、その油を使ってさまざまな商品を開発・販売するのがテレビ番組のスポンサーである企業なんです。

こうした現状を見て、謙虚な気持ちで僕たちに何ができるかを考えたとき、今の食生活を180度変えるのは不可能ですが、例えば日本人全員が今まで10個買っていたものを7個に減らすだけでひょっとしたら熱帯雨林を切らずに済むかもしれない。つまり先進国の消費者がもっと賢くならなければいけません。スポンサー企業に対しても「申し訳ないけれど7個しか買えません」と宣言していいと思うんです。熱帯雨林破壊の危機はもうそこまで来ていますから。

しかし、危機はアマゾンに限りません。ボルネオ島で熱帯雨林をパームヤシに変えパームオイルとして輸入するのが日本企業だし、ラオスで焼き畑を禁止し森林保護に取り組む青年海外協力隊取材したときは、50年後のパルプを育てるために焼き畑後の畑を買うのが日本企業であると知りました。とにかくどこへ行っても日本なんです。こうした企業活動がなければ今の生活は失われますが、私たちの生活のためにどれだけの自然を破壊しているかをほとんどの日本人が自覚していない。これは大きな問題。そのことを視聴者に訴えるのは僕たちの使命です。

アマゾンの熱帯雨林の違法伐採を監視する活動にJICAが協力しているのは意義のあることです。次の段階として、アマゾンの違法伐採をしなくて済むようなアグリビジネス（農業を通じた経済活動）が展開できるような支援を行ってほしいと思います。